

「福島は今と向きあう。」ダイジェスト

2012 年度、立教 SFR（立教大学学術推進特別重点資金）重点領域プロジェクト研究として、「課題解決型シミュレーションによる ESD プログラムの研究開発」（2012～2014 年度／研究代表者：阿部治）が採択され、東京電力福島第一原子力発電所事故の被災者支援の研究プロジェクトをスタートさせました。ESD 研究所は、立教 SFR 重点領域プロジェクト研究と合同で、連続講演会「福島の今と向きあう。」を開催いたしました。東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地・被災者の「今」を知り、原発事故を風化させないために、4 名の講師の方々に、福島の「今」について語っていただきました。各会の詳細は、講演録『福島の今と向きあう。』をご参照下さい（※ ESD 研究所 HP からダウンロードできます）。

あの時、避難所は…“おだがいさま”が 支えた 169 日間—ビッグパレットふくしま 避難所が教えてくれたこと—

【日時】2012 年 11 月 7 日（水）18:30～21:00

【講師】天野和彦氏（あまの・かずひこ 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 特任准教授）

東日本大震災、福島第一原発事故に際し、約 2,500 人の被災者を受け入れ、福島県内最大規模といわれた「ビッグパレットふくしま避難所」（郡山市）。そこに設置された「おだがいさまセンター」（富岡町生活復興支援センター）は、サロン（喫茶スペース）や足湯の設置、FM ラジオ局の開設、夏祭りの開催など多彩な取り組みを行ってきました。

ビッグパレットふくしま避難所の県庁運営支援チーム責任者として運営に携わり、現在は、おだがいさまセンター長を務める天野和彦氏は、「避難生活において住民の命を守るためには、交流の場の提供と自治活動の促進が重要」と強調し、そのための取り組み事例が紹介されました。



フクシマ放射能汚染と人権

【日時】2013 年 1 月 22 日（火）18:30～20:30

【講師】國分俊樹氏（こくぶん・としき 福島県教職員組合 書記次長）

國分俊樹氏は、原発事故後、教育現場に向けて、放射能の危険性とその対応を紹介し、放射能と人権に関わる教育の重要性を呼びかけてきました。

講演では、福島県教職員組合が作成した放射能教育の教材『生きるための学び』を紹介しながら、「福島に対する差別や人権侵害の現実から目をそむけず、子どもたちも教職員も一緒に学び合うことが重要」と述べ、福島の実情に即した放射能教育のあり方や課題についてお話しいただきました。



大いなる田舎飯舘村に放射能が降った —学校教育再建・復興への取り組み—

【日時】2013 年 1 月 28 日（月）18:30～20:30

【講師】広瀬要人氏（ひろせ・かなめ 飯舘村教育委員会 教育長〈当時〉）

長年、福島県内の教育現場に携わり、飯舘村教育委員会教育長を務めた広瀬要人氏に、原発事故後、異郷の地で村民の絆の再構築を図り、学校教育の再建・復興に取り組んでいる飯舘村の現状と課題についてお話しいただきました。また、被災者支援のあり方として、広瀬氏は「放射能被災者に対するいじめや差別、風評被害をなくす前提は、原発被災地の正しい理解であり、それこそが、何にも勝る“支援”、誰にでもできる“支援”」と述べ、全国民が放射能に関する正しい知識を得ることが重要と語られました。



食の安全と放射能 —放射能汚染環境下での暮らし—

【日時】2013 年 3 月 5 日（火）18:30～21:00

【講師】河田昌東氏（かわた・まさはる NPO 法人チェルノブイリ救援・中部 理事）

チェルノブイリ原発事故の汚染地域ウクライナ・ナロージチ地区で、1990 年から被災者の救援活動に取り組んできた河田昌東氏。

講演では、これまでの調査・分析をもとに、福島第一原発事故とチェルノブイリ原発事故を比較し、放射能汚染環境下における暮らしのあり方についてお話しいただきました。また、福島県内での放射能測定



データを紹介しながら、放射能汚染に関する信憑性の高いデータや情報がなかなか世に出ないという事実についても触れ、「市民が自ら、知るべき情報を知りたいと行政に働きかけることが重要」と述べられました。